

大船渡農業改良普及センターからのお願い

家庭菜園・産直向け野菜栽培者の皆さまへ

トマトの病害「トマト黄化葉巻病」の まん延防止にご協力ください！

この秋、大船渡地域で防除が困難なタバココナジラミとトマト黄化葉巻病の発生が確認されました。

翌年への持越しとまん延を防ぐためにも、皆様のご協力をお願いします。

1 栽培期間中、こんな症状はありませんでしたか？

○今年のトマトやミニトマトの栽培中、こんな症状はありましたか？



トマト黄化葉巻病の典型的な葉の症状：（左）葉の黄化、葉巻 （右）葉の萎縮と黄化

《トマト黄化葉巻病》

タバココナジラミによって媒介されるウイルス病で、このウイルスに感染すると、その後成長したトマトは結実なくなり、収穫不能となります。トマト生産者にとっては大きな脅威となる病害虫です。

2 皆さまに協力をお願いしたいこと

○前述のような症状が見られた方は、以下に記載している対応をお願いします。

(1) 感染したトマトの抜き取り処分

- ・ 黄化葉巻症状や萎縮症状が見られる株は見つけ次第抜き取り、透明なビニール袋へ密閉して日光に当て、中の株が枯れてから土に埋めて処分してください。

(2) 畑の片付けや周辺を含めた除草

- ・ 畑（またはハウス）の収穫残さは、念のため（1）と同様に透明なビニール袋に入れ、高温にして枯らしてから処分してください。
- ・ 畑や周辺の雑草、野良生えトマトは、タバココナジラミやトマト黄化葉巻病の発生源及び伝染源となるため、適切に除去（処分）してください。
- ・ 特にハウス栽培では、栽培終了時にハウスを1カ月程度密閉し、作物（雑草含め）をすべて枯らしてから持ち出し処分しましょう。

(3) その他・ハウス栽培の場合

- ・ ウイルスを媒介するタバココナジラミは、東北の屋外では寒さのため越冬できないとされていますが、ハウスで保温した状態では越冬してしまいます。
- ・ **ウイルスの越冬場所になりうる植物（雑草、観賞用の花、いちご等）はできる限り処分して翌年のウイルス感染源をなくすとともに、厳寒期にハウスの出入口や側面を5日程度開放してください。**

【参考；ウイルス病を媒介するタバココナジラミ】



タバココナジラミとオンシツコナジラミの違い（成虫と蛹）※いずれも左がタバココナジラミ（成虫の体長は約0.8mm）
タバココナジラミ成虫は翅が重ならない
タバココナジラミ幼虫は葉裏に寄生、黄色
※診断に役立つ埼玉の農作物病害虫写真集より引用

症状に心当たりがあり、ハウス栽培で冬作に葉物などの栽培をする方等、不明な点やお問合せがある場合は、農業改良普及センターまでご連絡ください。